



ヤフー株式会社

業 種／情報・通信業
 主な事業内容／イーコマース事業、会員サービス事業、インターネット上の広告事業 など
 従業員数／6,993人(2020年3月31日現在)

備蓄

大規模災害を想定して各フロアに備蓄倉庫を設置

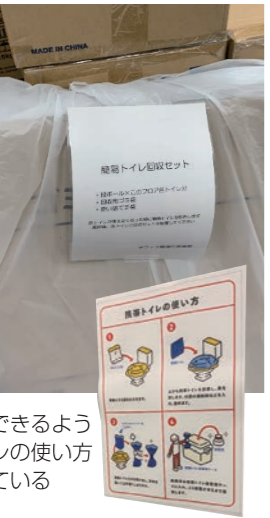
防火区画を考慮し、各フロアに2箇所ずつ災害備蓄倉庫を設置している。このように配置することで、大規模災害発生時に階段が使えないような事態に陥っても、他のフロアに移動することなく、備蓄品の入手が可能となる。また、各倉庫には飲料や食料品などが、想定出社人数プラスαも考慮して3日分備蓄されている。



各フロアの倉庫には3日分の飲料や食料品などが備蓄されている

簡易トイレ回収用の箱や手袋等も用意

簡易トイレは、使い方を図案化したポスターを用意。また、実際の利用を想定して、トイレを回収する箱や袋、手袋等も備蓄している。



誰でも使用できるように簡易トイレの使い方は図案化している

外部の方にも分かりやすい備蓄品の配置と設備の説明表示

来客会議室の室内に来客用のヘルメットを配備し、すぐに取り出せるよう目立つ場所に配置。またウォーターサーバーには、停電時の注水方法をマニュアルにしてまとめ、サーバー自体に貼り付けてある。



ヘルメットは誰でも取り出せるよう目立つ場所に

ウォーターサーバーには停電時の対処方法を貼付

BCPも最優先事項のひとつと考え、停電時に備えて非常用の電源装置を設置

当社は大規模災害発生時においてネットを通じて情報発信を行うことが重要な使命であると考えている。そのため、BCP(事業継続計画)も最優先事項のひとつとして、全社的に取り組んでおり、その一環として、停電になっても事業が続けられるように非常用電源装置を設置している。

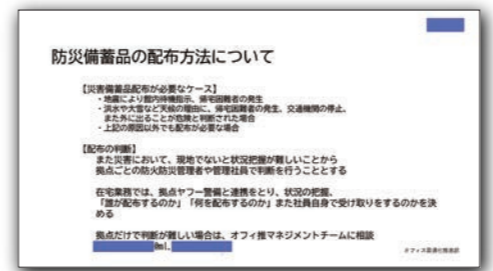


中型の蓄電池

各フロアに1台ずつ配備している

周知

作業がスムーズに進むよう備蓄品配布をマニュアル化



マニュアルのトップページ

当社は、防災用備蓄品の配布方法について、状況に応じてスムーズに行えるよう、事前にルールを設定している。まず、備蓄品の配布が必要なケースを災害種別ごとに決め、配布の判断を行う主体を定めている。さらに、配布の基準を災害の深刻度に応じて設定。配布のタイミングやタイムラインを示し、災害発生時にオフィス内で混乱することなく対応できるよう、ルールの周知を徹底している。

配布品の基準

備蓄品の基準 深刻度低

●帰宅困難によりオフィスに一晚滞在する場合
20時までに配布開始



ご飯：1コ
水：500ml 2本
2ℓ 1本



ライスコッキーまたはクラッカー：1コ(朝食)
パン：1コ



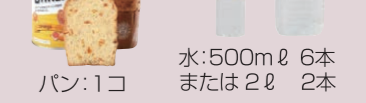
●翌日の昼まで帰宅の目処がたたない場合
10時に配布

備蓄品の基準 深刻度高

●3日間の滞在を想定した場合
1人に配布する目安(1日分)



ご飯：1コ
ライスコッキー：1コ



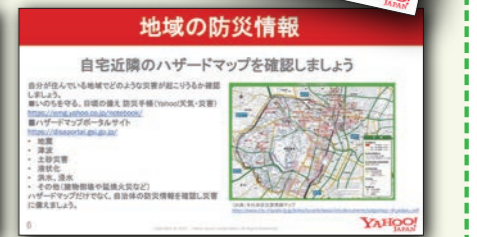
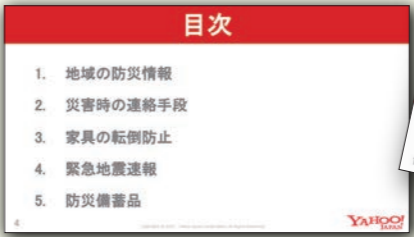
パン：1コ
水：500ml 6本
または 2ℓ 2本

非常用トイレセットとトイレトイレットペーパーの配布

非常用トイレセット 3日で5個
トイレトイレットペーパー 男子トイレ：11 女子トイレ：11 多目的トイレ：2

在宅ワークの増加に伴い家庭内の防災対策を重視

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、当社では大半の社員が在宅ワークを行っている。そこで、家庭内における防災対策が重要と考え、防災意識を高めるため、全社員およびその家族に向けて「防災ラーニング 家庭防災編」と題したeラーニングを実施。災害時の連絡手段や家具の転倒防止など、防災に役立つ情報が網羅されている。



英語版